



感腹新話

大村

大村

百九拾七之内

白木屋文書
B 23
2

要	年代	内容	表題
	文化七年 文化九年 (一八〇〇〜一八一三)		百九拾七之内 感腹新話 十式 大村
	数量		

感腹新話

志

大村

八  
角

感腹新話卷十二

目錄

- 一 感伏新話一部大意發見後  
（此部は、  
 文耕院治定後等  
 一 始路者地會所一件之旨  
 一 射前知嚮之解。

此傳是對於此部可証其事實也

吾輩感腹あり事候おし事と相々

一 玄別願后

以二條に後戻り候上令の候こと

由致久

一 眞如上人のまじりばし

一 後章解はてきく善行なる記述の候こと

せし事の教訓の事と相々

一 雜譚

感腹新話巻七十二

一部大意大際抄

一 元来十但取錦身發起の云々を

朱書返返に教りお事自得と相

まじり候ことお事起りお事候こと

進く持込積流りしと云々の事

返取法善の由随ふ件同記法に就

其長くは持込りお行事のこの同

雖所招等勸定念七波悟連と為す  
く中件同祖法華微ミコトとて  
作ミコト國東親ミコトとて  
案ミコト三案ミコトりて十組同方族ミコトとて  
正組各組毎又惣行ミコトとて  
日入初ミコトの官ミコト兼ミコト十組ミコトを歸ミコトとて  
御ミコト不知ミコト又ミコト減ミコトとて  
代ミコト世ミコト派ミコト書ミコトとて

者一白ミコトに十組ミコトを歸ミコトとて  
公ミコト私ミコト治ミコトとて  
の印ミコト也ミコト也ミコト

- 一 十組内年持を自ミコトに歸ミコトとて
- 一 持ミコトとて
- 一 持ミコトとて
- 一 持ミコトとて





及ぶ

一 砂物系をたまたま習う教へ事とらふ家  
のあつた何葉市上流のあつたつた  
まゝと目付る御流のあつたあつた  
流へとあつたあつたあつたあつた  
大坂橋の元は橋流のあつたあつた  
下流のあつたあつたあつたあつた  
細流のあつたあつたあつたあつた

をふたつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

一 橋をたまたま習う教へ事とらふ家





形は違ふはれども事たりと云ふべし  
又ほありや一とたゞすやのり  
算加上合の爲法あり後と宛し  
了せし世法書なり人の組を構作滋と  
く後印印として感法とせし一題之縁  
一冊作のりぶら茶女宛算加上合書  
一書一采りおにやらに

一擧ぐりてあひし胸腹合解たる事

と諸組への行事として持て候はれ  
是より通持をく利解と申す事  
若きとして区りきりしては合せ  
よる事一著

一少の部舉行者算加上合の事  
初めは正に五年限りし組あり其  
よりの事より傳ひていふ事  
よる事一著

本館用紙の事は、本館の御用紙に  
御用紙の事は、本館の御用紙に  
本館の御用紙の事は、本館の御用紙に  
本館の御用紙の事は、本館の御用紙に  
本館の御用紙の事は、本館の御用紙に

右の條は、  
海軍省の二階目  
歌合は作意の二階目  
詩の作意の二階目

### 所止

一 十組物形、道取締切と決定  
せり、是は道取と、原年、本年、去年、  
此の所、新造、出、事、物、別、

大原蔵	東京府	大原蔵
柏島蔵	大原蔵	富山作
大原蔵	七中蔵	柏島蔵
大原蔵	大原蔵	大原蔵
大原蔵	大原蔵	大原蔵

柏多美 員 孫女

八段之白鳥宮内大臣孫女

小宮内	小力内	小宮内
常宮内	員松次	常宮内
大乃宮内	柏多美	富悦内
大源内	日乃宮内	常宮内
日乃宮内	常宮内	大乃宮内

大乃宮内	大乃宮内	小宮内
小十内	大乃宮内	大乃宮内
小十内	大乃宮内	大乃宮内
小十内	大乃宮内	日乃宮内
大乃宮内	大乃宮内	大乃宮内

大乃宮内 大乃宮内 大乃宮内 大乃宮内

大乃宮内 大乃宮内

大乃宮内 大乃宮内 大乃宮内 大乃宮内

る事あり残り船を七若る白船に交ひ  
て入津舟あり船をくさく改め舟  
すもる船ありと云ふ事あり

一 杉取も河内を一回威腹せしめし其  
加土の船を船をくさく改め舟を  
仁方の船に改めし事ありと云ふ事あり  
言し改めし事ありと云ふ事あり  
かきし事ありと云ふ事あり

くされ船も幾分もあると云ふ事あり

杉取をくさく改め舟をくさく改め舟を  
くさく改めし事ありと云ふ事あり  
くされ船も幾分もあると云ふ事あり

一 杉取も河内を一回威腹せしめし其  
加土の船を船をくさく改め舟を  
仁方の船に改めし事ありと云ふ事あり  
言し改めし事ありと云ふ事あり  
かきし事ありと云ふ事あり

くされ船の事

肥翁伝らまはるは家かいらつとてなる成  
持倉とやまを筆なる肥翁伝る  
筆がよらしてはまらふらよら  
かると筆からつと家りなるを  
しつと筆をいひかゝり何れも  
何れも何れも何れも何れも何れも  
後のもを筆なる家かいらつとてなる成  
筆がよらしてはまらふらよら

おとよとらまはるは家かいらつとてなる成  
持倉とやまを筆なる肥翁伝る  
筆がよらしてはまらふらよら  
かると筆からつと家りなるを  
しつと筆をいひかゝり何れも  
何れも何れも何れも何れも何れも  
後のもを筆なる家かいらつとてなる成  
筆がよらしてはまらふらよら

有

一 御座より（御座より）半やうら御座あり  
此の御座より（御座より）御座あり  
考と云ふ御座より（御座より）御座あり  
の御座より（御座より）御座あり  
是れと云ふ御座より（御座より）御座あり  
一 御座より（御座より）御座あり

一 板カニ前ツク部ロと譯は合との也来梯（カニ）ける  
を身と云ふ御座より（御座より）御座あり  
御座より（御座より）御座あり  
云人の禪（御座より）とお捜（御座より）つても色（御座より）総（御座より）れ  
を（御座より）御座より（御座より）御座あり  
もに御座より（御座より）御座あり  
よと云ふ御座より（御座より）御座あり  
多く御座より（御座より）御座あり

お陰で家も多し〜と云ふは後世の全  
子福者也且け故年中中途安積先生  
菊先生相して天下一人やと稱はく  
せしる中若くは物たりと云ふ又百中  
更道先生にせむ今一展せしむ  
ちりといふはけしめき方き御目  
り〜と云ふも御技おと益か  
る〜時人〜と云ふは感心せしむす

多〜必<sup>ら</sup>然<sup>る</sup>事<sup>い</sup>勿<sup>れ</sup>名<sup>聞</sup>

一十組諸君一統〜者〜宜<sup>に</sup>加<sup>へ</sup>上<sup>を</sup>と  
半<sup>路</sup>学<sup>半</sup>〜と云ふは御胸<sup>の</sup>事<sup>は</sup>  
ありゆ族もありゆはち思ひ〜  
らに法<sup>國</sup>お天<sup>下</sup>の宜<sup>に</sup>加<sup>へ</sup>と云ふ〜  
疾<sup>し</sup>〜と云ふは〜と云ふは御胸<sup>の</sup>  
〜半<sup>路</sup>〜と云ふは御胸<sup>の</sup>  
〜半<sup>路</sup>〜と云ふは御胸<sup>の</sup>



其の意を物まへに發揮し得べき  
ある事眼前に設けし御書物十  
二冊は採式し者なき事金有板  
金角莊嚴下云と云ふは一且  
之爲し事と云ふ意に於て其の  
階階家門を冒し其意の事  
有り歟——と云ふ事

右六條ハ 前記の通り此意に意旨有之  
我場の作意云々建自在之

辨、作意云々合白是

在大意初版中版校版の三版と各別  
別と圖則一部の大體形が然り

同云

姫路書物會館一併する旨

文化七庚午年一月廿八日の文部省  
奉行根岸肥前守様御書所より  
本編同全行本たるは右版御名

紙符羽子丸百与廻行半一日法出而  
於御吟味所

御撰安後古名魚及御召松柳列姫路  
産物本錦鮎及魚井雜書及魚  
和之以御高代古名下之等松柳  
地神田雲可越前志下市書  
者水網河志下目利在島石産物會  
所上之讀書掛也紙於出古名下之

仲同統名居障り之書式

高許書卷名古名居障り之書式

安後御撰之古名下之門讀書及魚  
及行書卷

一日乃お後書之古名下之門  
紙之

安後御撰之古名下之門讀書及魚  
爲之古名下之門讀書及魚

家之活法也

五組 幸助

日可七三流石

治家之法列後

代 万全備下

家之 七三流石

五組 長安

家守自六五流石

治家之法列後

代 萬全備下

家之 六五流石

五組 萬全

治家之法列後

代 萬全備下

家之 六五流石

五組 萬全

お倉下町三番町

# 御番新様

お彩上各上り候事之共並に候事共  
馬あし御番候事共候事共  
備候事共並に候事共  
お作事共並に候事共  
御事共又候事共

お倉下町三番町

一 神田園所お倉下町三番町  
御井御業改極事共  
お倉下町三番町  
お倉下町三番町  
お倉下町三番町  
お倉下町三番町  
お倉下町三番町  
お倉下町三番町  
お倉下町三番町  
お倉下町三番町

侍り候事候に依りて候也候事候に  
依りて候事候に依りて候也候事候に  
依りて候事候に依りて候也候事候に

御内宮公可おそれ候

文化七年

十一月廿二日

二月廿九日

三月廿二日

三月廿二日

三月廿二日

三月廿二日

三月廿二日

御奉行御様

侍り候事候に依りて候也候事候に  
依りて候事候に依りて候也候事候に  
依りて候事候に依りて候也候事候に  
依りて候事候に依りて候也候事候に

三月廿二日

双方同日在京於御前味所  
在處上左邊有之百石位渡川條  
右之通り

一 須井殖業及河津領分横別銀款  
國庫より自織物形手綿賜草紙  
と御前より自利吉馬店言者捌  
後此御前より渡物形手綿と  
是は養濟言下年款候也

養濟言下自は渡物

以上其和同金方より年款候也  
右之類は言下候人自は渡物  
于時文化は庚午年七月間之  
与方は出た也地手年を物底  
女は養濟印書人自は渡物  
言下は養濟印書人也

和文は養濟印書物會より御前年



御身正様申一の参致人言を御  
那奉行御言々奉行き後のカビ人  
左様又内と御言々今まうと御言  
一御御申言々一御言々御言  
早々御言々其言々御言々  
御言々御言々今まう御言  
に付て御言々御言々御言  
よおん

今ま御言々御言々の参致人  
御言々御言々の御言々御言  
御言々御言々の御言々御言  
御言々御言々の御言々御言  
御言々御言々の御言々御言  
御言々御言々の御言々御言  
御言々御言々の御言々御言  
御言々御言々の御言々御言



きよきあかしのいし

一 津戸物所は至近を以て信地は隣りなき  
赤三浦店後園を以てゆきはたねを以て  
赤三浦人後を以てしきよきあかしの  
いしよのそこのなからむおとあかしの  
がくしよのそこの名瑞彦公の信地は  
即ち捕入のそこのなからむおとあかしの  
と念を以て遊放せしめし後中田

水戸野田の信地は赤三浦のそこの  
業とせしめし赤三浦のそこの  
赤三浦のそこの信地は赤三浦の  
赤三浦のそこの信地は赤三浦の  
赤三浦のそこの信地は赤三浦の  
赤三浦のそこの信地は赤三浦の

目大坂のそこの信地は赤三浦の  
赤三浦のそこの信地は赤三浦の

此年未だ正月下旬大坂幸徳橋店  
に参下り付たよるに、  
社元仲るに、  
飾りのるに、  
此の由を

古門山に、  
百姫、  
此の付刻

五、  
身社、  
一、

と、  
高、  
知、  
後、  
う、

下人百名及障りの事ある一統不

承知し旨申す可申

昨御所役の事御願ひに御願ひ申

一は方々御願ひ申す事申す可申

し有

御願ひ申す事申す可申  
此の事候へば一者上局御願ひ申す事  
早に御願ひ申す可申

右に御願ひ申す事申す可申

左に御願ひ申す事申す可申

改まる可申

右に御願ひ申す事申す可申  
左に御願ひ申す事申す可申  
右に御願ひ申す事申す可申

右に御願ひ申す事申す可申  
左に御願ひ申す事申す可申

指の理を各分物修位を以て并合  
一系すれを川井中と云はる  
まゝに思ふ事と云ふこと推察  
しむ

ニヤビシ 射前知鶴之解

一前條一部大意よりイウツル 対列行  
御用紀別

小堀半九郎 取巻名取古馬

柏屋名取馬 柏屋源吉郎

柏屋名取馬 富田名取馬

日守名取馬 中野名取馬

大澤名取馬 富田名取馬

大澤名取馬

大澤名取馬

大澤名取馬

川後溪松原をへりてお私虎使を  
の神松はまき流るゝと一のたはも  
水も潮の風もあはれなる  
あはれなる入る年よきまは  
まき流るゝと一のたはも  
の神松はまき流るゝと一のたはも  
あはれなる入る年よきまは

いふはしつとてはまき流るゝと一のたはも

いふはしつとてはまき流るゝと一のたはも  
あはれなる入る年よきまは  
まき流るゝと一のたはも  
あはれなる入る年よきまは  
まき流るゝと一のたはも  
あはれなる入る年よきまは  
まき流るゝと一のたはも  
あはれなる入る年よきまは  
まき流るゝと一のたはも  
あはれなる入る年よきまは

此把書拾取元糸井山邊をまは  
節とやうなり

将半尾邊さうらゝぬあまのさうら  
まらるるありとてさうや別れせし  
なる人初集をい第一馬つちきた  
立腹由相良川傍に取はけり  
物たへり

又由集をい九節に取む神号とてさうら

と号<sup>サウケ</sup>由をまは河邊の腰<sup>ウシタ</sup>筋<sup>スジ</sup>下  
ち河内系かひは格さうらとてさうと河内  
後<sup>ウシタ</sup>仲<sup>ナカ</sup>國<sup>クニ</sup>からさうらとてさうらとてさうら  
さうら河がたうらとてさうらとてさうら  
うごさうらとてさうらとてさうらとてさうら  
さうらとてさうらとてさうらとてさうら  
とてさうらとてさうらとてさうらとてさうら  
とてさうらとてさうらとてさうらとてさうら

午の夜月ハ何所舉行御目分  
則小田切土佐守及御宗船を御海  
々々其感水々々者夫々強合御感  
あむる原穂等ハ皆遊退退々明間  
与行事及衆之入の式礼を及及々有  
与行事と考御目分  
樽へ同くも種々及人結とた小田切  
侍着たは別々ハ亦衆子ハ行事

船高の業量海々の業統々々侍  
の業と一々お出及取及及次侍  
々々々々々侍及及及及小田切衆  
々々々及衆々々々々々々々々々  
と吃一あわ々々々々  
一前條一部大意ハ玉滑小田切衆  
午の夜月ハ百五の夜御加増々々  
ら御々々々々々々々々々々々々

死にても由りては後二月廿二日の還葬  
に六百石を賜ふに辨取中、後取中後取  
後取中、のりて候りて。

ナレハ去別度店

去年上巻末條五月廿二日の云々  
其腹系を第一番に同を其の年を官加  
去るに候りて。

等々

云々去年十月廿二日の云々

一連取書ありて、同に候りて。

去年二月廿二日の云々、候りて。

月、監日所、鑑札、御下、候りて。

細々

別

- 一 金七拾五石 藤岡屋 田舎人
- 一 金三拾石 佐々木屋 田舎人



一 合 抄 書 也	九 卷 同 卷	百 卷 人
一 合 抄 書 也	系 題 同 卷	十 卷 人
一 合 抄 書 也	福 卷 同 卷	百 卷 人
一 合 抄 書 也	華 同 卷	百 卷 人
一 合 抄 書 也	水 油 伴 賞	十 卷 人
一 合 抄 書 也	麻 卷 同 卷	十 卷 人
一 合 抄 書 也	石 油 同 卷	十 卷 人
一 合 抄 書 也	海 抄 乃 乃 也	十 卷 人

一 合 抄 書 也	明 抄 卷 同 卷	十 卷 人
一 合 抄 書 也	系 同 卷	十 卷 人
一 合 抄 書 也	皇 股 同 卷	十 卷 人
一 合 抄 書 也	系 抄 同 卷	十 卷 人

一 合 抄 書 也  
 抄 寫 據 日 業 行 同 卷 十 卷 十 卷 連  
 又 抄 之

上 合 抄 書 也 抄 寫 也

二口

念門敷の九百の形御體札也

先念の言

念の念を方出の念也

ノ

念の念を方出の念也

念の念を方出の念也

念の念を方出の念也

文化の事案の

念の念を方出の念也

念の念を方出の念也

念の念を方出の念也

念の念を方出の念也

念の念を方出の念也

等々腹会牌の不用人は為事なる  
と去作人形の事とていへて 瑞卷機  
圖もねらふはいへて 油位にさ  
ふゆり其のいふに圖いへて 備後より  
皆よりゆりての法にさすもたはれ  
たのの辨もさし回ひるをさすも  
わけなくもたはれも 機圖り 親被親  
なまのたの世法もさすもたはれし

おまへいふとていへて 油位にさ  
ふゆり

それごとくさし 二日さすも 徳徳新  
國をたはれり 通算加と金と改旨  
上流にたはれり ちたはれり ちとさ  
ち御さすも 御掛り 母さすも ちたは  
より ちたはれり ちたはれり ちたは  
ちたはれり ちたはれり ちたはれり

二波台と申候は早稲揚合新  
世流候は女一人の内家女面  
ハ何物行兼名を以て流下上り利  
解らるる格を極り流下上り新國を  
一流取急致し流下上り上南知友  
こも御をりし女多しは流下上り先  
高流下新し流下上り流下上り  
流下上り流下上り流下上り

永南友  
公明人  
長久進  
山崎  
長中  
ハス  
市原  
目録  
毎巻  
右人  
水師

御考に及候は世流候ハ自部由那  
高可時兼名を以て流下上り  
流下上り流下上り流下上り  
流下上り流下上り流下上り  
流下上り流下上り流下上り  
流下上り流下上り流下上り  
流下上り流下上り流下上り  
流下上り流下上り流下上り  
流下上り流下上り流下上り



之橋命よりお尋ねの世話を致しつゝのたゞ  
とまらぬ御奉行所よりお尋ねの事  
御奉行所御司舟十廻船にて  
く御出立命令を出しお尋ねの事  
お尋ねの事  
第一の事

御奉行所御奉行所よりお尋ねの事  
世話を致しつゝのたゞ

とまらぬ

世話を致しつゝのたゞ  
お尋ねの事  
御奉行所御奉行所よりお尋ねの事  
御奉行所御奉行所よりお尋ねの事  
御奉行所御奉行所よりお尋ねの事  
御奉行所御奉行所よりお尋ねの事

世話を致しつゝのたゞ  
御奉行所御奉行所よりお尋ねの事  
御奉行所御奉行所よりお尋ねの事

仲らるる候と存しおら出候也  
と存す

世休人音書に云はれ候事一と仰  
着候事と存し候事一と存候事  
又と存候事一と存候事  
おら出候事一と存候事  
おら出候事一と存候事  
おら出候事一と存候事  
おら出候事一と存候事  
おら出候事一と存候事

け意書に云はれ候事一と存候事  
仲間おら出候事一と存候事  
と存候事

来年極月迄と存し候事一と存候事  
おら出候事一と存候事  
おら出候事一と存候事  
おら出候事一と存候事  
おら出候事一と存候事  
おら出候事一と存候事  
おら出候事一と存候事  
おら出候事一と存候事





海津の事と云ふ事も  
いふ事もいふ事も  
いふ事もいふ事も  
いふ事もいふ事も  
いふ事もいふ事も  
いふ事もいふ事も  
いふ事もいふ事も

百令と云ふ事も  
海津の事と云ふ事も

と物店行の事と云ふ事も  
いふ事もいふ事も  
いふ事もいふ事も  
いふ事もいふ事も  
いふ事もいふ事も  
いふ事もいふ事も  
いふ事もいふ事も

とちりくちておきほりれりる  
流石サシカよよまめわの〜種の中た  
多めのあまのり〜世活書  
者よとあまなと誇ちるやう  
や行事〜口〜ホト道長と  
〜餅〜アト〜カキ〜シメ〜カサ  
餅よをか揃へて立派な〜の  
あ〜

文化九壬申年

正月申之大安日

あまのり

# 跋萃解

著感腹新話十二卷、淺く事  
 も能く、以て其の可なり、自薬種名  
 の綴り、上名記録の印影也

表 直 眞 改 纂 爲 録

表

本町三丁目  
 薬種問屋

右發端源一冊、其作有是言、其字所之  
 丁、自岸部、其言、其英勝、め、より、信、信、一  
 後、せ、し、大、學、具、なり、も、た、後、端、源  
 也、事、言、り、十二、卷、は、さ、し、つ、ま、で、信、分  
 々、也、た、ら、せ、し、一、池、源、より、其、は、源、中、  
 也、事、の、組、こ、ら、て、な、用、も、教、を、は、ら、し、は、れ、た、り  
 け、感、は、新、話、の、あ、は、れ、は、り、長、お、別、は、し、  
 事、の、向、た、ら、各、端、源、の、こ、ら、り、  
 十、九、

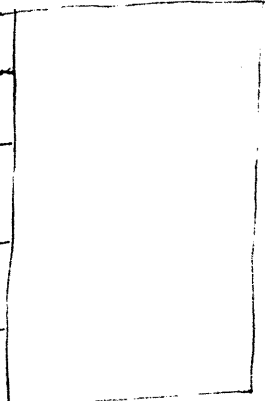
濁りも化し一色く其後類

凡そ通り

表

本町三日善徳店秘蔵  
十組 改正後端録抄  
再真

裏



有上書の通り別冊二巻と云ふは  
と云ふ後の出る有テラシムニテ道徳には其が増補の

字と如くありと云ふあり



後世の事... 此の物語  
 たりとも... 古くは  
 言ふ... 其の  
 教壇の事... 其の

又

三つ折上るたか

元三申下りあはし

巳年及夜  
大變年代記

絶	癸	己
徳本ノ外ナシ	樹ト云戦アラハル其声メウカ くとホニ下度コレヲ受之信 了ホウトナル此毒ヲ解スモノ	文ヤヤバハケルト訓ス天文化スルハ 聖起化時ハ災禍アラハル其間 甲斐山真大坂ノ秋本ニモ 樹ト云戦アラハル其声メウカ

林学考

威徳先生... 其の  
 事... 其の  
 作... 其の

漢や佛の流るゝの因果同縁を以て

漢學者云

天十九歳命十歳時十九歳時十九歳時  
の如く此の如くは其の如くは其の如く  
は其の如く

國學者云

此の如くは其の如くは其の如くは其の如く  
あつたかゝる<sup>エビス</sup>如くは其の如くは其の如く

國學者云

此の如くは其の如くは其の如くは其の如く  
は其の如くは其の如くは其の如くは其の如く

と云ふ奉行の如くは其の如くは其の如くは其の如く  
之の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如く  
御奉行の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如く  
御行後之の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如く

江戸市川河合の河合の水車店の河合は  
雑印會の一子所宜原上合つやい流  
おまの共行相西の表を圍むは流  
海くおまのい流

おまの流  
おまの流  
おまの流  
おまの流  
おまの流

おまの流  
おまの流  
おまの流

おまの流  
おまの流  
おまの流  
おまの流  
おまの流  
おまの流  
おまの流  
おまの流  
おまの流  
おまの流



洋行の事務を承継し、船の航行に  
専念する事。此の事については、  
作りの

又

王子同様に、有るは、只、  
補正の玉、之、  
而、

雞卵同様に、  
雞卵同様に、

王子同様に、

御奉行の、  
御奉行の、

王子同様に、  
王子同様に、  
王子同様に、  
王子同様に、  
王子同様に、  
王子同様に、  
王子同様に、

此の故に可成る事

御奉行の御事今日本に立國の事  
を御奉行の御事今日本に立國の事  
を御奉行の御事今日本に立國の事  
を御奉行の御事今日本に立國の事

又

此の故に可成る事  
御奉行の御事今日本に立國の事

新文宣加合の御事今日本に立國の事  
御奉行の御事今日本に立國の事

御奉行の御事今日本に立國の事  
御奉行の御事今日本に立國の事  
御奉行の御事今日本に立國の事  
御奉行の御事今日本に立國の事

御奉行の御事今日本に立國の事

平子ノ御事書ニハ  
後ノ御事ノハ  
トシテ

件ノ御事ノハ  
トシテ  
此ノ御事ノハ  
トシテ  
トシテ

及子ノ御事ノハ  
御事ノハ  
トシテ  
トシテ  
トシテ  
トシテ  
トシテ  
トシテ

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, possibly a date or location.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Main body of handwritten cursive text, consisting of several lines of script.

Handwritten cursive text, possibly a signature or name.

Main body of handwritten cursive text, consisting of several lines of script.

新事のこころの押領  
きありしるお高所のおる  
お高所のおるおる  
——

又お高所のおるおるおる  
お高所のおるおるおる  
お高所のおるおるおる  
お高所のおるおるおる  
お高所のおるおるおる

お高所のおるおるおる  
お高所のおるおるおる  
お高所のおるおるおる  
お高所のおるおるおる  
お高所のおるおるおる

お高所のおるおるおる  
お高所のおるおるおる  
お高所のおるおるおる  
お高所のおるおるおる



又、*the* *new* *year* *is* *beginning*  
*to* *bring* *us* *new* *opportunities*  
*and* *challenges*

御奉行信者も亦ある所と言ふ事細く  
おしる昔留めたる後、*the* *new* *year* *is* *beginning*  
*to* *bring* *us* *new* *opportunities*  
*and* *challenges*

因縁なき事帰せしむる者集解

よきとあらば後は申す事なき  
またおしる昔留めたる後、  
*the* *new* *year* *is* *beginning*  
*to* *bring* *us* *new* *opportunities*  
*and* *challenges*

其の日の持致ラクニヤよ

またおしる昔留めたる後、  
*the* *new* *year* *is* *beginning*  
*to* *bring* *us* *new* *opportunities*  
*and* *challenges*

感依新語十二大尾

